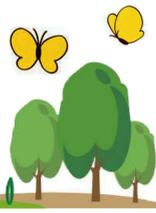




ちょっとそこまで～お散歩日和(植物編)～



ハナモモ

ハナモモが花を咲かせています。7号棟と1号棟の間の緑地帯、ちょうど当団地の入り口に当たる位置に濃いピンク色の華やいだ雰囲気醸し出してくれています。

桃の実が成る果樹をベースに、花の鑑賞用として品種改良を重ねて誕生したのがこのハナモモです。ちょうどサクラの花と同じ時期に八重の花をたくさん咲かせます。花色は濃淡ピンクに加え、白、赤など目を惹く鮮やかな色味が特徴です。



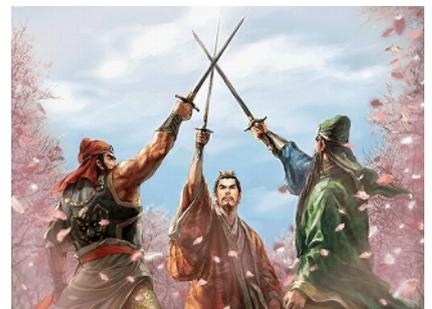
JR中野駅北に囲町公園があります。そこは、綱吉の時代に生類憐みの令によって作られた、野犬の収容施設「御囲い場」、言わば犬屋敷のあった場所です。しかし、その後、吉宗の時代になると、その跡地を「お立て場(休息所)」とし、紅白の桃を植え整美していきます。残念ながら現在では大きく住宅地として変貌してしまい、面影はありません。しかし、住居表示としては使われてはいませんが、中野駅の南側一帯を「桃園(ももぞの)」と呼ぶ名称は今でも残っています。桃園川然り、桃園通り然り、桃園第二小学校然り、桃園地域センター然り、囲桃園公園然り…。この辺りのことは、以前NHK「ブラタモリ」でも扱っていましたっけ。

そんな歴史を踏まえ、街づくりの一環として中野駅界隈の公園や街路樹はもとより、公共施設の周辺、三角地点となった花壇やちょっとした植え込みスペースを利用して、このハナモモの木が至る所で植栽されるようになりました。ということで、この時期、桃園地域の散策はお勧めのコースです。



脱線ついでにもう1つ、桃園川についても触れておきます。この川は杉並区の荻窪駅北にあった天沼弁天池を水源に、ほぼ大久保通りに沿って流れ、神田川に合流しましたが、現在は全てが暗渠化され緑道に変貌してしまっています。従って、何の風情もないのですが、この合流地点である末広橋の脇に、昔懐かしい「神田川の歌碑」が建っています。しかし、この歌のイメージはこの地ではなく、もう少し下流の落合、または中井周辺ではないかなと思います。

「桃園(ももぞの)」を「桃園(とうえん)」と読み直すと、「桃園の誓い」を思い出します。劉備、関羽、張飛の3人が義兄弟の誓いをする場面は、「三国志演義」冒頭の白眉です。しかし、ここで疑問を感じるのは何故桃の園なのかという点です。



もともと中国では、桃は不老長寿の果実として扱われており、有名なところでは孫悟空が天界で食べるお話があります。彼が食べた桃は蟠桃(ばんとう)と呼ばれる、平べったい品種です。

そもそも、桃の実や桃の木は触るだけで魔除けや厄除けになると言われており、したがって桃の実だけでなくタネや木も魔除けとされています。桃の木で作られた剣を飾った魔除けもあります。桃の枝で背中を叩いて厄を祓うという話もあります。

それから、「桃源郷」という、陶淵明の描いたユートピア思想もあります。

これは、東晋(とうしん)の時代に、ある漁師が川を遡るうちに桃の花が咲きにおう林に迷い込んでしまいます。その林の尽きる水源の奥の洞窟を抜け出ると、そこには戦乱を避けて隠れ住む人々が、数百年にわた

って平和な別天地での生活を営んでいたという話です。

そうした中国の影響を強く受け、日本にも数多くの桃にちなんだ話が残されています。

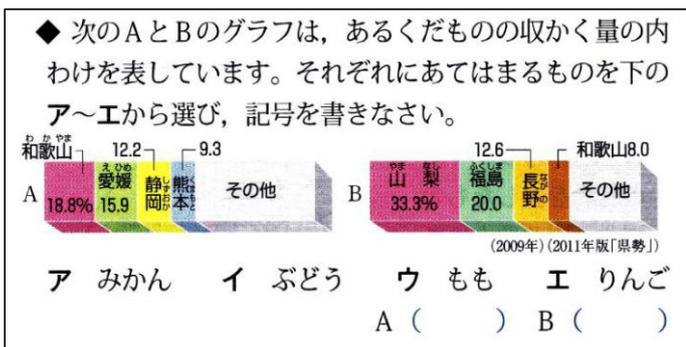
まずは、古事記にはイザナギノミコトが黄泉の国へ行き、帰る際に桃の実を投げて化け物たちを蹴散らしたという話は有名です。また、桃の木で作られた櫛は魔除けになると言われており、昔は女性に桃の木で作られた櫛を贈る習慣がありました。桃太郎は鬼を退治します。桃太郎は桃、鬼は魔を表していますから、桃太郎が鬼を退治する事で桃は魔除け（厄除け）であるという話になっているわけです。京都の清明神社には「厄除桃」があり、その置物を触ることで厄が落ちるとされています。



桃太郎の話が出たので触れておきますが、鬼が来る方向を鬼門と言います。したがって、桃の木を厄除けとして植える場合は北東に位置すると良いことになります。ヒイラギと同じです。そのことを考慮してのことだと思われそうですが、5号棟の北東にもハナモモが植栽されています。冒頭に触れたハナモモよりも日陰の時間が長い影響でしょう、少しだけ開花が遅いように思われます。ただ、いずれもそうですが、剪定が強過ぎて、花芽の数が少な過ぎます。もったいないことです。



社会科の問題に良く出される果物の生産地クイズでは、ブドウにするかモモにするかでよく迷います。例えば、左のような問題です。この時のキーポイントとなるのが福島県の存在です。桃の生産高が第2位となっているからです。桃太郎で有名な岡山県は第6位で思ったほどではないのが意外ですが、有袋栽培による高級品志向を強めているのが原因かもしれません。桃の品種の主流は白桃ですが、このルーツも全て岡山県ですから、やはり岡山県の存在感は群を抜いているのかもしれません。



中央道の笹子トンネルを抜けて甲府盆地に入ると、一気に桃源郷の趣きになります。特に、石和温泉で有名な笛吹市では、4月10日を「笛吹市桃源郷の日」と制定しています。これは、4月10日が1月1日から数えてちょうど100日目であり、漢字の百は「もも」と読めること、そして、10日（とおか）は「桃花」とも書き表すことができることからだそう。ユーモアに満ちた語呂合わせで楽しいではありませんか。

今回は、桃つながりであちこちに話題が逸れてしまいましたが、それもまた一興でしょう。



笛吹市の風景

(終)